小学校社会科における多面的・多角的なものの見方や考え方の育成
～震災を経験した地域素材を活用する単元構成の工夫を通して～

二本松市立油井小学校　福島県教育センター長期研究員　平野　俊一

1　研究の趣旨

教育課程企画特別部会「論点整理」において、社会科では、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置くことが示されている。小学校中学年の段階から、多面的・多角的なものの見方や考え方を育成していくことで、目の前の社会的事象を様々な角度から見たり、それをもとに考えたりすることができるようになるだけでなく、その社会的事象の本質を見る目を育成することができると考える。

東日本大震災及び原発事故から５年が経過した。震災からの復興を担う福島に生きる子どもたちだからこそ、社会的事象と出会ったときに、様々な面や角度からその事象を見たり、または、自分で物事を考え、判断し、行動したりすることができる力がより必要であると考える。

そこで、震災での経験を学びの中に取り入れながら教材化し、目の前の社会的事象を多面的・多角的に見たり考えたりしていくことで、子どもたちは、社会的事象をより身近なものとしてとらえ、主体的に学習に取り組むことができると考え、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

> 社会科の指導において、以下のような視点（「２　研究の概要」参照）に基づいて単元を構成すれば、自分のこととして社会的事象をとらえ、生活と関わらせながら多面的・多角的に考え、判断できる子どもを育むことができるであろう。

2　研究の概要

(1)　【視点１】主体的に社会的事象を学ばせる震災を経験した「人・もの・こと」の活用
　①　魅力ある地域素材の開発
　②　震災を経験した「人・もの・こと」の精選と活用

(2)　【視点２】社会的事象を多様な面や視点から考えさせる工夫
　①　社会的事象を多面的・多角的にとらえさせる単元構想図の作成
　②　社会的事象を多面的・多角的にとらえさせる単元構成の工夫

(3)　【視点３】自己の学びの変容に気付かせる工夫
　①　社会科日記・社会科物語の活用と振り返り
　②　イメージマップの活用と振り返り

3　成果（○）と今後の課題（●）

○　学習対象とする社会的事象の多面や多角を単元構想図に整理することで、子どもたちに身に付けさせたい見方や考え方を明確にすることができた。それを基に単元を構成し、学習計画を作成することができた。

○　私たちが生きる社会は、一つ一つの事象が有機的につながりをもって構成されていることに気付かせることができた。また、一つの物事の裏側にはいろいろな人が関わっていることや自分もその中の一人として関わっていることを理解させることができた。

○　震災後の福島の現状（原発事故に伴う放射線の影響などがいろいろな方面で見られること、その影響による風評被害などの問題を乗り越えようとより安心・安全なもの作ろうと努力し続ける人がたくさんいること、その一方で、放射線の影響を心配し、食に対する心配や不安をなかなか取り除けない方もまだまだいるということ）を理解させることができた。

●　多面的・多角的なものの見方や考え方がどれだけ身に付いたかをその単元内で検証するのは難しいと感じた。イメージマップや社会科物語に学習のまとめとして自分の思いや考えを書き表すことで、自分の学びの過程（社会的事象に関わる多面や多角に気付くことができているか）を振り返ることができる。こうした振り返りの経験を継続して積み重ねていくことにより、徐々に多面的・多角的なものの見方や考え方が身に付いていき、様々な事象と出会ったときに見えない部分にまで思いを寄せ、考えようとする姿が見られるようになっていくと考える。